

東洋大学 正会員 本間 仁

〃 〃 荻原 国宏

〇 〃 〃 橋井 吉孝

用水路を食むる段波の挙動を説明しておく事は、例えは、デルタ地帯に於ける用水路網計画等に於いて有用な指針を与える。現在迄種々色々の研究があるがこれ迄こゝろ。とて、我々の分岐・合流により段波が如何に変化するを、物理的挙動についての研究に着手した。先ず、ここでは分岐水路の上流側水位 (H_1) を与えてその波高・流速の変化を式に表わして計算した結果を示す。尚、以下に示す様に、断るまでもなく目新しい方法ではなく、全く基本的な式の組み合わせによる解析式であることを附記しておく。

1. 解析式

点線と囲んだ領域を検査面にとり、1より矢印方向に段波が移動する場合の式をたてる。矩形断面を仮定。

I] H_m, H_n を下流側水位で表わした場合。

即ち、 $H_m = H_3, H_n = H_2$

II] $H_m = (H_1 + H_3)/2, H_n = (H_1 + H_2)/2$ で表した場合について考える。

I]

1. 連続式 $H_1 U_1 = H_2 U_2 + H_3 U_3$ ----- (1)

2. 運動量の式

2.1 x方向

$$\frac{W}{2} B (H_1^2 - H_2^2 - H_3^2 \cos \alpha) + R_{mx} = \rho Q_2 U_2 + \rho Q_3 U_3 \cos \alpha - \rho Q_1 U_1$$
 ----- (2)

2.2 y方向

$$\frac{W}{2} (H_3^2 \sin \alpha) + R_n - R_{my} = \rho Q_3 U_3 \sin \alpha$$
 ----- (3)

Rの値を(2),(3)に代入すると。

(2)は

$$\frac{W}{2} (H_1^2 - H_2^2) = \rho H_2 U_2^2 + \rho H_3 U_3^2 \cos \alpha - \rho H_1 U_1^2$$

(3)は

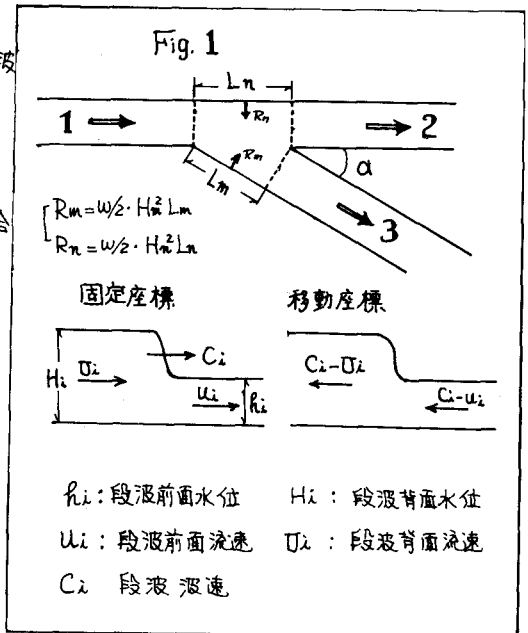
$$H_3 U_3^2 \sin \alpha = \frac{g}{2 \sin \alpha} \cdot (H_2^2 - H_3^2)$$
 ----- (3')

3. 次に各水路における段波の式は

3.1. 2水路で

$$(C_2 - U_2) H_2 = (C_2 - U_2) h_2$$
 ----- (4)

$$\frac{W}{2} (h_2^2 - H_2^2) = \rho H_2 (C_2 - U_2) (U_2 - U_2)$$
 ----- (5)



3.2. 3水路で

$$(C_3 - U_3) H_3 = (C_3 - U_3) h_3$$
 ----- (6)

$$\frac{W}{2} (h_3^2 - H_3^2) = \rho H_3 (C_3 - U_3) (U_3 - U_3)$$
 ----- (7)

以上の(1)~(7)より

[未知量 $U_1, H_2, H_3, U_2, U_3, C_2, C_3$
既知量 H_1, h_2, h_3, U_2, U_3

4. 今、簡単の為、 $h_2 = h_3 = h, U_2 = U_3 = 0$ とすると

$$(4)から C_2 = \frac{U_2 H_2}{H_2 - h}$$
 ----- (8)

$$(5)に代入すると \frac{W}{2} (h^2 - H_2^2) = -\rho H_2 \frac{U_2 H_2}{H_2 - h}$$
 ----- (9)

$$(6)より \quad C_3 = \frac{U_3 H_3}{H_3 - h} \quad \dots\dots(10)$$

$$(7)より \lambda \text{ すると } \frac{\omega}{2}(h^2 - H_3^2) = -\rho h U_3 \frac{U_3 H_3}{H_3 - h} \dots\dots(11)$$

(1) (9), (11) を (2), (3) へ代入して整理すると、

$$(3) \text{ は } \frac{\sin^2 \alpha}{h} H_3^3 + \cos^2 \alpha \cdot H_3^2 - h \sin^2 \alpha \cdot H_3 + (h^2 \sin^2 \alpha - H_2^2) = 0 \quad \dots\dots(12)$$

(2) は

$$\begin{aligned} & h \cdot H_1^3 + (h H_3^2 \cos \alpha + h^2 H_3 \cos \alpha + h^3 H_2 - h^3 \cos \alpha \\ & - H_2^3 - H_3^3 \cos \alpha - h^3) H_1 + (H_3 + H_2) h^3 \\ & - (H_2^3 + H_3^3) h^2 - (H_2^3 + H_3^3) h + (H_2^4 + H_3^4) \\ & + 2(H_2 - h)(H_3 - h) \sqrt{H_2 H_3 (H_2 + h)(H_3 + h)} \\ & = 0 \quad \dots\dots(13) \end{aligned}$$

II]

運動量の式に I] の値を加える。同様の方法で整理して行くと、

$$\begin{aligned} & \frac{\sin^2 \alpha}{2h} H_3^3 + \cos^2 \alpha \cdot H_3^2 + (2H_1 \cos \alpha - 4h \sin^2 \alpha) H_3 \\ & + \{4h^2 \sin^2 \alpha - H_1^2 \sin^2 \alpha - (2H_1 H_2 + H_2^2)\} = 0 \quad \dots\dots(14) \\ & - \frac{3}{8} H_3^2 \cos \alpha + \frac{H_1}{4} \cos \alpha \cdot H_3 + \frac{H_1^2}{8} (\cos \alpha + 4) - \frac{H_2^2}{2} \\ & = \frac{1}{2h} (H_3 - h)^2 (H_2 + h) (\cos \alpha - \frac{H_2}{H_1}) \\ & + \frac{1}{2h} (H_2 - h)^2 (H_2 + h) (1 - \frac{H_2}{H_1}) \\ & - \frac{1}{h H_1} (H_2 - h)(H_3 - h) \sqrt{H_2 H_3 (H_2 + h)(H_3 + h)} \quad \dots\dots(15) \end{aligned}$$

以上の (12), (13), (14), (15) を $\zeta = H_1/h$, $\xi = H_2/h$, $\eta = H_3/h$ を使って無次元表示すると、

$$(12) \text{ は } \sin^2 \alpha \cdot \eta^3 + \cos^2 \alpha \cdot \eta^2 - \sin^2 \alpha \cdot \eta + \sin^2 \alpha - \xi^2 = 0 \quad \dots\dots(16)$$

(3) は

$$\begin{aligned} & \xi^3 - \{ \xi^2 + (\xi - 1)^2 (\xi + 1) + (\eta - 1)^2 (\eta + 1) \cos \alpha \} \xi \\ & + \{ (\xi - 1)^2 (\xi + 1) \xi + (\eta - 1)^2 (\eta + 1) \eta \\ & + 2(\xi - 1)(\eta - 1) \sqrt{\xi \eta (\xi + 1)(\eta + 1)} \} \xi^2 \\ & = 0 \quad \dots\dots(17) \end{aligned}$$

(14) は

$$4 \sin^2 \alpha \cdot \eta^3 + \cos^2 \alpha \cdot \eta^2 + (2 \cos \alpha \cdot \xi - 4 \sin^2 \alpha) \eta + 4 \sin^2 \alpha - \sin^2 \alpha \cdot \xi^2 - 2 \xi \xi - \xi^2 = 0 \quad \dots\dots(18)$$

(15) は

$$\begin{aligned} & -3 \cos \alpha \cdot \eta^2 + 2 \cos \alpha \cdot \xi \cdot \eta + (\cos \alpha + 4) \xi^2 - 4 \xi^2 \\ & = 4(\eta - 1)^2 (\eta + 1) (\cos \alpha - \frac{\eta}{\xi}) + 4(\xi - 1)^2 (\xi + 1) (1 - \frac{\xi}{\eta}) \\ & - \frac{8(\xi - 1)(\eta - 1)}{\xi} \sqrt{\xi \eta (\xi + 1)(\eta + 1)} \quad \dots\dots(19) \end{aligned}$$

2. 数値計算

(16) ~ (19) 式を使って行った数値計算の結果を以下に示す。尚、 $\xi = \zeta = \eta = 1.0$ は解として当然でてくるが表から省略した。上段が I] で、下段が II] で求めた値を示している。

Tab.1. 数値計算

S	30°		60°		90°		135°	
	ξ	η	ξ	η	ξ	η	ξ	η
2.00	2.20 ***	2.24 ***	2.50 ***	2.53 ***	2.65 ***	2.66 ***	2.35 1.38	2.19 1.47
3.00	3.60 1.02	5.05 1.34	4.60 1.17	6.47 1.67	5.00 1.34	6.99 1.76	4.10 1.82	5.35 1.87
4.00	5.25 2.26	10.9 2.11	7.05 2.22	13.3 2.22	7.80 2.28	14.4 2.23	6.20 ***	11.6 ***
5.00	7.00 ***	26.6 ***	9.85 ***	29.0 ***	20.0 3.14	30.3 2.63	8.55 3.20	27.3 2.73

***: 解不存在

上表より

1) I] の方法では、 $\eta > \xi > \zeta$ 、即ち、 $H_3 > H_2 > H_1$ となり、正段波現象を表現しようという目的に反する。ちなみに、Froude 数は、2水路では $\zeta = 3.0$ 、3水路では $\zeta = 4.0$ 以上で 1.0 以上の値を示す様になる。

2) II] では *** で示した様にこの区切りの良い数値では解がでない場合もあり、 $\zeta > \xi$, $\zeta > \eta$ を示している事だけは判る。

亦た、実験を行っている最中で、実験値との比較がでるものではない事を言えるのが運動量方程式に形状抵抗項、例えば、 $C \frac{\rho A U^2}{2}$ の様な項を入れをなら、実際現象に相似した値をだせると思われる。